
目次

口絵：土器編年と集落構造：乗越遺跡・東山浦遺跡	I～II
刊行に寄せて	I
目次	2～5
はじめに	6～8
<hr/>	
I. 土器の製作と焼成方法	9～74
① 須恵器	10
1. 須恵器と土師器の違い	10
2. 文献に記載された「轆轤」	10
3. 「轆轤」と「ロクロ」	14
4. 須恵坏と土師坏の製作方法	14
5. 須恵坏の製作方法	18
6. 須恵器の焼成方法	21
7. 「酸化焰」と「還元焰」	24
8. 瓦と須恵器の焼成方法	25
1) 加水燻焼還元焼成法 25 / 2) 古代窯の焼成実験 27 / 3) 東大寺造瓦所の焼瓦 32	
9. 須恵器の色調	33
10. 「窖窯」での焼成方法	34
② 土師器	37
1. 土師坏の製作方法	37
2. 土師器の焼成方法	38
3. 「覆い焼き」	40
③ 須恵系土師質土器	44
1. 須恵系土師質土器	44
2. あかやき土器（須恵系土器）	48
3. 平底盤状坏	49
4. 赤焼き須恵器（草刈型土器）	55
5. ロクロ土師器・回転台土師器・模倣系土器	57
6. 比企型坏	57
7. 土器の焼成温度分析	58
8. 須恵系土師質土器の焼成方法	62
④ 木器	66
1. 日常食器と祭器（神器・仏器）	66

II. 土器編年	75 ~ 180
① 落川・一の宮遺跡土器編年の年代幅	76
② 南多摩窯址群の窯式設定過程と問題点	80
③ 落川・一の宮遺跡各段階の型式・窯式名と想定実年代	86
④ 第3段階～第30段階の型式・窯式と想定実年代	88
⑤ 土器編年と実年代根拠	90
1. 第18段階(710～730年)の実年代根拠	92
2. 第19段階(730～750年)の実年代根拠	98
3. 第21段階(770～790年)の実年代根拠	101
4. 第23段階(830～850年)・第24段階(850～870年)の実年代根拠	107
5. 第29段階(930～950年)の実年代根拠	112
⑥ 糸切り技法の変遷	113
⑦ 落川・一の宮遺跡第18段階以降の窯式と土器内容	119
1. 第18段階(710～730年)の窯式と土器内容	119
2. 第19段階(730～750年)の窯式と土器内容	134
3. 第20段階(750～770年)の窯式と土器内容	137
4. 第21段階(770～790年)の窯式と土器内容	139
5. 第22段階(790～810年)の窯式と土器内容	140
6. 第23段階(810～830年)の窯式と土器内容	141
7. 第24段階(830～850年)の窯式と土器内容	142
8. 第25段階(850～870年)の窯式と土器内容	143
9. 第26段階(870～890年)の窯式と土器内容	144
10. 第27段階(890～910年)の窯式と土器内容	145
11. 第28段階(910～930年)の窯式と土器内容	146
12. 第29段階(930～950年)の窯式と土器内容	147
13. 第30段階(950～970年)の窯式と土器内容	148
⑧ 須恵器生産終了後(窯式無き後)段階の土器内容	152
1. 第31段階(970～990年)の土器内容	157
2. 第32段階(990～1010年)の土器内容	158
3. 第33段階(1010～1030年)の土器内容	159
4. 第34段階(1030～1050年)の土器内容	159
5. 第35段階(1050～1070年)の土器内容	161
6. 第36段階(1070～1090年)の土器内容	161
7. 第37段階(1090～1110年)の土器内容	162
8. 第38段階(1110～1130年)の土器内容	164
9. 第39段階(1130～1150年)の土器内容	167

⑨ 竪穴建物の変遷	168
⑩ 掘立柱建物の変遷	175
1. 第40段階(1150～1170年)～第48段階(1320～1330年)	175
Ⅲ. 集落構造	181～276
① 竪穴建物面積と居住人員算出法	182
1. 竪穴建物	182
2. 竪穴建物の居住人員算出法	184
3. 五領遺跡の竪穴建物と居住人員	185
4. 東山浦遺跡の竪穴建物と居住人員	193
5. 一戸の竪穴建物数の面積と居住人数	199
② 太寶2年御野国戸籍記載の半布里の故地東山浦遺跡	202
1. 半布里の竪穴建物数と居住人員の考察	202
2. 半布里の「里刀自」について	208
③ 律令集落の園宅地	212
④ 落川・一の宮遺跡の集落形成から終焉までの変遷	217
1. 落川・一の宮遺跡の立地と調査経緯	217
2. 周辺遺跡	221
3. 血縁同居単位集団の宅地とその変遷	225
4. 都住A～D地区の血縁同居単位集団の形成から武士団屋敷への発展背景	233
5. 都住A～D地区の武士団屋敷の内容	247
6. 武士団の滅亡過程とその動因	249
7. 都道A・C地区の血縁同居単位集団の形成と展開	251
8. 都道C地区第24・25段階の建物群と出土遺物	256
9. 建物群の観点	258
10. 出土遺物の観点	259
11. 都道A・C地区血縁同居単位集団の減じた動因	260
12. 都道D～F地区の血縁同居単位集団	262
13. 都道E地区第45・46段階(1250～1290年)の施設	271
14. 都道D～F地区の減じた動因	274
15. 落川・一の宮遺跡の形成・展開・終焉	275
Ⅳ. 落川・一の宮遺跡居住集団の出自と生業	277～305
① 火熨斗	278

② 墨書土器「塹坑」	281
③ 磨痕石	284
④ 小野牧と牛馬の解体	290
⑤ 磨痕石の用途	296
⑥ 落川・一の宮遺跡と渡来系職能集団	298

付録：落川・一の宮遺跡の各段階の「窯式・型式・検出遺構・遺物」と 「歴史年表・文献」対照表	306～307
あとがき	308～309

表紙写真

表：真上から見た須恵系土師質土器焼成煙管実験窯（平成8年5月）。窯詰め状態の写真（久保田正寿氏提供）。

裏：土師器焼成法「覆い焼き」による実験（平成8年11月）。焼成後、覆っていた藁灰をどけた状態の写真（本文 P41～42 土師器焼成参照）。